



コレクション展

こくほう かきつばたずびょうぶ

国宝 燕子花図屏風

りんば きょうえん

—〈琳派〉の競演—

National Treasure *Iris*s Screens – Rinpa Splendor –

2013年4月20日(土)~5月19日(日)

[休館日] 月曜日 ただし4月29日(月・祝)ならびに5月6日(月・祝)は開館
5月7日(火)休館

時間延長: 4月27日(土)~5月6日(月・祝) 午後7時まで開館



根津美術館では、4月20日(土)から5月19日(日)までを会期として、コレクション展「国宝 燕子花図屏風—〈琳派〉の競演—」を開催いたします。

総金地の大画面いっぱいに青と緑の絵具のみを使って描き出された燕子花の群れ。シンプルながら、圧倒的な存在感を放つこの作品は、江戸時代半ばの元禄年間に、尾形光琳(おがたこうりん) (1658~1716)が生み出した日本の絵画史を代表する作品のひとつ、国宝「燕子花図屏風」です。

当館の絵画コレクションには、この「燕子花図屏風」をはじめ、いわゆる琳派の作品が多くふくまれています。そこには奇しくも、「燕子花図屏風」の前史ともいべき作品、あるいは「燕子花図屏風」の制作に関連のある光琳画が揃っています。たとえば、光琳が私淑した俵屋宗達(たわらやそうたつ)の工房で制作された「四季草花図屏風」。「燕子花図屏風」は、こうした無背景の金地草花図屏風を前提として成立しました。

光琳以降の琳派の作品にも優品が少なくありません。なかでも特筆すべきは、江戸琳派の画家・鈴木其一(すずききいつ)の「夏秋溪流図屏風」(あきけいりゅうずびょうぶ)でしょう。金に緑と青が映える色彩感は「燕子花図屏風」に似ていますが、画面にみなぎる生々しい生動感には、江戸後期という時代性と、其一の個性があらわれています。

このたびの展覧会では、こうした琳派作品とともに、琳派の影響を受けた同時代の作品も加えた計約25点を展観して、近世の豊穡な絵画世界の一端をご堪能いただけます。光琳の弟である乾山(けんざん)の陶器を特集する展示室5「仁清と乾山—都の華やかなやきもの—」もあわせてお楽しみください。また庭園を彩るカキツバタの群生がピークを迎えるゴールデンウィーク中(4月27日~5月6日)は、開館時間を2時間延長いたします。

コレクション展 展示室1・2 国宝 燕子花図屏風 —〈琳派〉の競演—



国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆 6曲1双 江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

燕子花以外には何も描かれていないが、伊勢物語の第九段、燕子花の名所であった三河の国・八橋の場面をモチーフにしたと考えられている。そのデザイン的な構成は、京都の高級呉服商の家に生まれた光琳が慣れ親しんだ衣裳文様の絵画への応用である。



四季草花図屏風 ^{いねんいん}伊年印 6曲1双 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

江戸時代のはじめには珍しかった種をふくむ60種類以上もの草花を描く。金地が透けて見える薄い絵具による。ニュアンスに富んだ彩色が新しい。俵屋宗達が営んだ工房で制作された屏風である。



^{うきふねずびょうぶ}浮舟図屏風 6曲1隻 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

源氏物語の浮舟の巻、^{におうのみや}匂宮 ^{うきふね}が浮舟を連れて宇治川を渡る場面を描いた大画面の源氏絵。細部の描法から^{はせがわは}長谷川派という流派の作と考えられるが、金箔を貼られた舟の長く引き延ばされた表現は宗達の源氏絵をもとにしている。



夏秋溪流図屏風 鈴木其一筆 6曲1双 江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

檜の林と岩間を流れる溪流が連続する6曲1双屏風に、右隻は山百合の咲く夏の景色、左隻は桜の葉が紅葉する秋の景色を描く。右隻の檜にはセミが1匹とまっている。

<関連情報>

■講演会 1 <近世草花図と燕子花図屏風>

- 日時 2013年4月20日(土) 午後2時から午後3時30分
- 講師 西本周子氏(元東京家政学院大学教授)
- 定員 140名

■講演会 2 <京焼の魅力をたずねて-仁清から乾山へ->

- 日時 2013年5月4日(土) 午後2時から午後3時30分
- 講師 荒川正明氏(学習院大学教授)
- 定員 140名

*会場はいずれも根津美術館 講堂

お申込方法

往復はがきに参加を希望される講演会(「講演会1」または「講演会2」と、住所、氏名(返信面にも)、電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館『国宝 燕子花図屏風』展係にお申込みください。

「講演会1」は2013年4月6日(土)、「講演会2」は4月20日(土) 締切(当日消印有効)。

参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

■スライド・レクチャー

展示内容について、学芸員がスライドをもちいてお話しします。

- 《モーニング・レクチャー》 4月23日(火)、5月10日(金) 午前11時から午前11時30分
- 《イブニング・レクチャー》 4月30日(火)、5月3日(金) 午後5時30分から午後6時まで

ご参加方法

事前申込みは不要です。各回とも開始の15分前より会場(講堂)入口で受け付けます。

定員(140名)になりしだい受付終了となります。

*講演会、レクチャーはいずれも無料ですが入館料をお支払いください。

<時間延長> 2013年4月27日(土)~5月6日(月・祝) 午前10時~午後7時(入館は午後6時半まで)

ゴールデンウィーク期間中、開館時間を延長し、午後7時まで開館します。また4月末から5月初旬にかけてカキツバタの群生が庭園を青色に彩ります。



茶室「弘仁亭」前のカキツバタ

<ミュージアムショップ>



燕子花図をイメージしたオリジナルグッズを各種販売致します。

●お箸袋「こうりん」(箱入り・40枚入り) 950円(税込)

根津美術館所蔵の尾形光琳筆「国宝 燕子花図屏風」(18世紀)をモチーフとした箸袋です。折って、箸を差して、置く。それだけで、おもてなしに心がこもります。40種類すべて異なる絵柄は木版画のようにも見える、柔らかな風合いに仕上げました。しおりやメッセージカードとしてもご利用頂けます。(※お箸は含まれておりません。)

<NEZUCAFÉ>



緑豊かな庭園が眼下に広がる、景観のよいNEZUCAFÉでは、国宝燕子花図屏風展示時期に合わせて、限定メニューを販売予定です。

定番のミートパイや、有機栽培の豆を焙煎した美術館オリジナルのコーヒー、さらには抹茶ラテ(ホットとアイス)も、人気メニューです。

－同時開催－ 《テーマ展示》

展示室 5 「仁清と乾山 ー都の華やかなやきものー」

江戸時代の京都で、野々村仁清ののむらにんせいそして尾形乾山おがたけんざんは、諸国の大名に向けて都の華やかさを伝える色絵陶器を作りました。今回は、アメリカから里帰りした乾山の錆絵四方香炉さびえよほうこうろを特別出品します。



特別出品

錆絵玉取獅子摘四方香炉さびえたまとりしつまみよほうこうろ

尾形乾山作 江戸時代 正徳5年(1715) 個人蔵

乾山は、画家である兄・尾形光琳の助けを得て、錆絵の色紙皿など、墨絵のような作品を多く作った。これは玉取獅子を乗せた蓋を持つ四方の香炉。ながらくアメリカのコレクションに入っていたが、昨年ほぼ一世紀ぶりに日本に戻った。



重要文化財

色絵山寺図茶壺いろえやまでらざむつぼ

野々村仁清作 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

色絵に華やかな金銀彩を施した陶器の茶壺は、丸亀京極家の注文で制作された茶壺のひとつ。胴の周りには山寺の塔を遠景にして、満開の桜の夕映えの情景を描き出している。

いろえむすびぶみちやわん

色絵結文茶碗 野々村仁清作 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

仁清は、錆絵の茶碗が得意としたが、色絵にも独特の技法を開発した。この結文の文様も、柔らかな白地の上に、青釉と赤釉を下地として、金彩で鹿子文様を丁寧に施したもの。



展示室 6 「清和月の茶」

清和月せいわづきと呼ばれる旧暦4月は、空気が澄んで、うららかな季節です。炉をふさぎ、その年初めて風炉に釜を掛ける、初風炉の茶会にふさわしい茶道具約20点を取り合せます。



みしまちやわん めい うえだ

三島茶碗 銘 上田

高麗茶碗 朝鮮・朝鮮時代 15-16世紀 根津美術館蔵

浅めで、小ぶりの茶碗であるが、口縁がきりりと外側に反り、端正な姿をしている。三島の名称は、下部にみられる点を連ねた文様が、三島曆さんしまに似ているためと伝わる。



こそめつけこいみみはなけ

古染付鯉耳花生 景德鎮窯 中国・明時代 17世紀 根津美術館蔵

筒形の胴に細長い頸がついた花生で、その左右に魚形の耳が付いている。双鱼は中国の吉祥文で子孫繁栄を意味するが、日本に請来した後、茶人により鯉に見立てられた。

くだみよほうみずさし

管耳四方水指 高取 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵



四角い形の水指で、左右に細長い耳が付いている。外側に糸目状の細い篋目へらめが横に廻り、全体に鉛色の釉が掛かる。正面に流れる青白色の海鼠釉なまこゆうが鮮やかに映えて清々しい。

[開催概要]

- 【展覧会名】 コレクション展「国宝 燕子花図屏風 - 〈琳派〉の競演 -」
- 【主催】 根津美術館
- 【開館期間】 2013年4月20日(土)～5月19日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【時間延長】 4月27日(土)～5月6日(月・祝) 午後7時まで開館 [入館は午後6時半まで]
- 【休館日】 毎週月曜日 ただし4月29日(月・祝)ならびに5月6日(月・祝)は開館
5月7日(火)休館
- 【入館料】 一般1000円 学生800円
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 中学生以下は無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
* 2013年2月23日(土)～4月7日(日)「遠州・不昧の美意識」展
開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、
B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは、機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から[根津美術館](#)を[検索](#)してダウンロード

一次回展のご案内

特別展 山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵

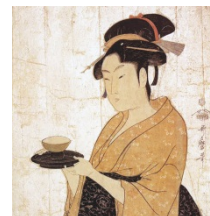
東洋陶磁と浮世絵の名品

2013年6月1日[土]～7月15日[月・祝]

中国、朝鮮の陶磁器と日本の浮世絵版画。東京初公開の特色あるコレクションをご覧ください。



染付葡萄栗鼠文壺
朝鮮・朝鮮時代 18世紀
山口県立萩美術館・
浦上記念館蔵



難波屋おきた(部分)
喜多川歌麿 江戸時代 18世紀
山口県立萩美術館・
浦上記念館蔵

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当: 所/村岡/羽田

TEL 03-3400-2538 広報(直) FAX03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp